

テーマ POTTを伝える「伝承」

2023年10月29日 18:30～21:00

参加者61名

## 第一部:特別講演 演題「あらためて誤嚥性肺炎を考える」

あおいそら在宅診療所 馬木良史先生



誤嚥性肺炎は誤嚥を繰り返すことになって生じ、フレイルとサルコペニア特に慢性炎症による低栄養と呼吸不全から負のスパイラルを引き起こしていく一連の消耗性変化と考えなければならない。口腔環境不良やオーラルフレイルが低栄養脱水の進行・免疫力低下を引き起こす誘因となり、その背景には呼吸のフレイル・サルコペニアも存在していると考えられる。

誤嚥予防のためには口腔環境の改善・呼吸リハビリテーション・栄養の維持を柱に包括的取り組みが必要であり。在宅では多職種連携により誤嚥性肺炎を早期に診断し治療を開始することが難治化を防ぎ誤嚥性肺炎の予防にもつながる。訪問時は必ず呼吸へのアプローチの時間を確保し、大きな呼吸が出来、咳の力を確保し、クリアランスを図ることで呼吸状態が安定する。痰の減少は介護負担の軽減につながり、身体状況の改善により在宅療養期間の延長にもつながる。全身機能の向上は食べる機能の改善にもつながり、免疫力の向上が誤嚥性肺炎の予防にもなる。そして呼吸機能の維持は安全にたべるための最後の砦になりうる大切な要素である。

講演では実際の臨床の現場での呼吸リハビリテーションとして呼吸理学療法手技や機器の使用による効果・IOC導入による栄養療法の実際などを紹介頂き、呼吸コンプライアンスの維持を図ることの重要性を再認識するとともに非常に学びの多い貴重な学習の機会となった





## 第二部:実践報告

### 「ポジショニング知識、技術向上に向けた取り組み」



JA厚生連 吉野川医療センター  
野田 昭さん

- 病棟スタッフ全員にPOTTを体験してもらい研修を計画。
- 講義はランチョンセミナー形式で見てもらい、45度リクライニング位における濃度別のとろみ剤の流れ方を動画にするなどスタッフが興味をもって体験・実感してもらえるように工夫した。
- 体験セミナーは研修日を数日設け、時間をスライドさせることで全員受講を可能にした。
- ポジショニングの必要性を、体験を通して発信できたことでスタッフが患者目線で考えてくれるようになり足底接地にも注意してくれるようになった。

### アンケートより

- 相談を上手にすることで多職種を巻き込む方法が参考になった。
- より確実に伝承するためのヒントを得ることができた。普段の業務はもちろん技術を伝承するためには、1人だけで行動するのではなく、共通認識を育める環境づくりと、それを可能とするための仲間づくりが大切であるということを感じた。
- 事例発表学習会企画する上での工夫等具体的に聞いて参考になった。体験というのがキーワードだと思いました。とろみの体験とてもいいと思いました。
- 伝承について北出先生が終わりの挨拶の中で地道にコツコツと...とおっしゃっておられ、その言葉に勇気をもらった。
- グループワークでキーマンや、リーダーを巻き込む事が秘訣ともアドバイスをもらった。

### 「新人看護師に対しPOTTプログラムを用いた安全な食事介助と口腔ケア研修を行った結果」



徳島大学病院  
原田 里美さん 兼本 ひろみさん

- 大学病院新人研修プログラムの中にPOTTプログラムを導入。
- 新人ナース36名全員が参加体験が行えるように参加者を3グループに分けポジショニング・とろみ・EAT10の評価を実施できるようにした。
- 認定ナースを中心としてファシリテーターが各グループで指導を行い、知識技術の習得定着を図った。
- ポジショニング効果を体験することで自己のケアを振り返る機会となり食事介助の場面で早速変化がみられるようになっている。
- コロナ禍の影響で実践経験のないまま臨床に出ている職員もおり、学習格差も見受けられる。安楽なポジショニングの必要性を教育計画に組み込みPOTTを活用したOJTにつなげる計画をシステム化していくことが技術の均てん化とレベルアップにつなげるための課題だと感じている

## グループワーク:

# 「POTTプログラム・明日からできる・伝えるための私の第一歩」 小さな行動目標やキーワードを言葉にしてみましょう

### Keyword: 目標の共有と共感できる仲間

POTTの知識技術を現場に広めたいが、研修を行うのみでは継続に課題がある。現場ではPOTTを必要とする患者も多く、求められる実践に教育が追いつかないことが課題。継続して実践するためには仲間づくり・環境作りが大切。

### keyword: 計画と効果の可視化

研修を継続して実施することは難しいが看護師だけではなく介護職を含め他職種で研修を実施することで効果を可視化できるのではないかと考える

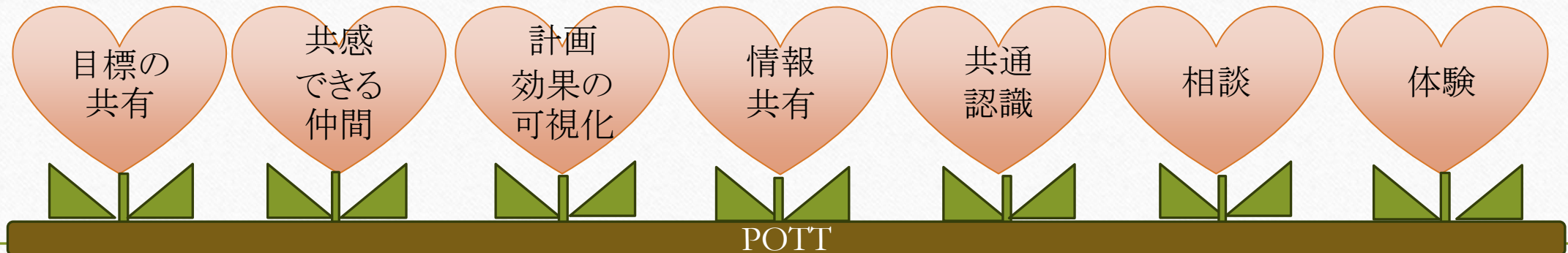
### Keyword: 情報共有

多職種が関わるため共通言語、共通認識が必要。写真や動画を用いて視覚に訴えていく必要がある。  
また、実際に患者さんの苦痛を体験することでポジショニングの重要性を実感してもらうことが有効だと感じる。

### Keyword: 相談

食事姿勢だったり自分の気づきを看護師やリハビリに相談したりしている。  
例えば足底設置、みんな必要性が認識ができていないのでそこを結果的に患者さんが快適に食事できるように周りに声掛けをしていく。

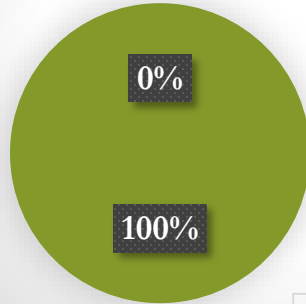
keyword: 体験・共通認識 不良姿勢を体験してもらうなど、体験が大切。





## 学習会は参考に なりましたか

■ はい  
■ いいえ

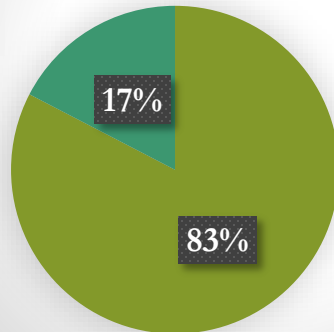


医療現場だけでなく、地域などの幅広い視点の講演を続けて貰えたらと思います。

回答数23名

## ポジショニングに取り組んで いますか

■ はい  
■ いいえ



専門職だけでなく、一般の人に向けても広まっていくと良いなと思います。

## 学習会の感想

- 講演はすごく学びが多く、栄養管理のこと含め考えさせられる内容だった。
- 呼吸リハの有効性 在宅でこれだけの結果が出せることに感動をしました。
- 馬木先生の講義の中にある、栄養評価と口腔ケア、呼吸リハ、家族の介護力が誤嚥性肺炎を予防することがよく理解できた
- 誤嚥性肺炎はどのような疾患であるか、どう向き合うべきかについて改めて自分の中でも考えるきっかけになった。また、研修会の報告では、より確実に伝承するためのヒントを得ることができた。
- 講義部分では誤嚥性肺炎になりにくくするために、口腔衛生管理や、栄養状態、脱水など摂食嚥下障害という部分だけを見るのではないと学びました。呼吸リハというのは初めてみました。全く初めてで目からウロコでした。
- 呼吸リハの効果と、忙しい業務の中の数分でも実施していく姿勢が大切なのだという事、高齢の方でも老衰と考えず色々な角度でアプローチする気持ちの大切さを感じました。
- グループワークでは明日からすぐに踏み出せる一歩として参加されてる方々のご意見を拝聴でき大変参考になりました。

会員限定でアーカイブ配信予定です。ご活用ください